

「エスプロカルブ」「クロチアニジン」「チアメトキサム」「ノバルロン」「フェリムゾン」「フルオピラム」「プロスルホカルブ」「プロピコナゾール」「ペンチオピラド」「イソキサチオン」「イソウロン」及び「フェナリモル」の食品安全基本法第24条に基づく食品健康影響評価について

下記の農薬等について、食品中の残留基準設定の検討を開始するに当たり、食品安全基本法（平成15年法律第48号）第24条第1項及び第2項に基づき、食品安全委員会に食品健康影響評価を依頼するものである。

評価依頼農薬等の概要は、別添1のとおりである。また、評価依頼が2回目以降である農薬等について、前回評価依頼時から追加となった各種試験データは別添2のとおりである。

なお、食品安全委員会の食品健康影響評価結果を受けた後に、薬事・食品衛生審議会において上記農薬等の食品中の残留基準設定等について検討することとしている。

記

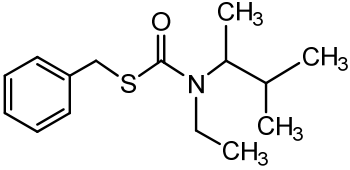
1. エスプロカルブ（農薬）
2. クロチアニジン（農薬）
3. チアメトキサム（農薬）
4. ノバルロン（農薬）
5. フェリムゾン（農薬）
6. フルオピラム（農薬）
7. プロスルホカルブ（農薬）
8. プロピコナゾール（農薬）
9. ペンチオピラド（農薬）
10. イソキサチオン（農薬）
11. イソウロン（農薬）
12. フェナリモル（農薬）

エスプロカルブ

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年 5 月 17 日、農林水産省からの農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	エスプロカルブ (Esprocarb)	
構造式		
用途	除草剤	
作用機構	チオカーバメート系の除草剤である。 細胞分裂阻害、特に蛋白質合成阻害により雑草の生育を抑制又は停止させ、枯死させるものと考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: 水稻(一年生雑草)、小麦(一年生雑草)等 今回、大麦への適用拡大申請	
	使用方法: 散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド基準: なし
食品安全委員会での評価等	【1】	平成 19 年 9 月 13 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 20 年 1 月 17 日 食品健康影響評価結果 受理
	【2】	平成 21 年 1 月 20 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 21 年 5 月 14 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.01 mg/kg 体重/day

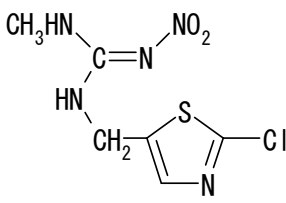
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

クロチアニジン

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 22 年 11 月 29 日、農林水産省からの「**農薬取締法に基づく適用拡大**」申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	クロチアニジン（Clothianidin）	
構造式		
用途	殺虫剤	
作用機構	ネオニコチノイド系の殺虫剤である。 昆虫の神経細胞の接合部においてニコチン作動性アセチルコリン受容体に結合し、神経の興奮を遮断することで殺虫作用を示すものと考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物：稲（ツマグロヨコバイ等）、きゅうり（アブラムシ類等）、りんご（カメムシ類等）等 今回、豆類（未成熟）、未成熟とうもろこし、非結球あぶらな科葉菜類、ほうれんそう、パセリ、セルリー、キウイフルーツ、とうがらし類、みつば、わけぎ、あさつき、はくさい、かぶ、しゅんぎく、うめへの適用拡大申請 使用方法：散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI=0.1mg/kg 体重/day
	国際基準	なし
	諸外国	米 国 基 準：だいず、ぶどう、もも等 カナダ基準：とうもろこし、なたね E U 基 準：グレープフルーツ、ぶどう、もも等 豪 州 基 準：りんご、なし、もも等
食品安全委員会での評価等	【1】平成 16 年 10 月 5 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 17 年 1 月 27 日 食品健康影響評価結果 受理 【2】平成 17 年 10 月 4 日及び平成 18 年 7 月 18 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 18 年 12 月 7 日 食品健康影響評価結果 受理 【3】平成 20 年 1 月 11 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 20 年 2 月 28 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.097 mg/kg 体重/day	

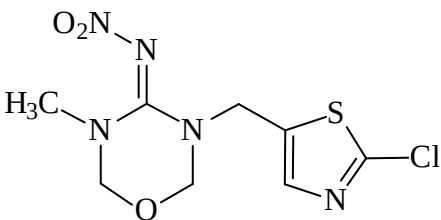
JMPR:FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

チアメトキサム

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 22 年 11 月 29 日、農林水産省からの「**農薬取締法に基づく適用拡大**」申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	チアメトキサム (Thiamethoxam)	
構造式		
用途	殺虫剤	
作用機構	ネオニコチノイド系殺虫剤である。昆虫中枢神経系のニコチン性アセチルコリン受容体に作用を及ぼすと考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: 稲(カメムシ類等)、トマト(コナジラミ)、いちご(アブラムシ)等 今回、かぶ、にんじん、アスパラガス、実えんどう、やまのいもへの適用拡大申請	
	使用方法: 散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI = 0.08 mg/kg 体重/day
	国際基準	なし
	諸外国	米 国 基 準: とうもろこし、ばれいしょ、マンゴー等 カナダ基準: ブロッコリー、ぶどう等 E U 基 準: にんじん、トマト、アプリコット等 豪 州 基 準: かんきつ類等 ニュージーランド基準: りんご、キウイ等
	食品安全委員会での評価等	平成 16 年 8 月 3 日及び平成 18 年 7 月 18 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 20 年 4 月 3 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.018 mg/kg 体重/day

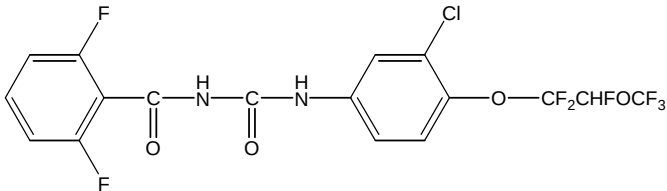
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

ノバルロン

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年3月1日、農林水産省からの農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

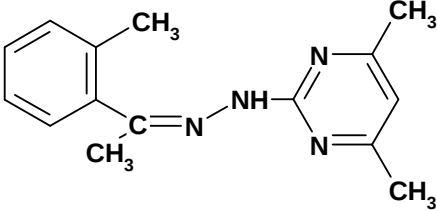
名称	ノバルロン (Novaluron)	
構造式		
用途	殺虫剤	
作用機構	ジフルベンゾイルウレア系の殺虫剤である。 アセチルグルコサミンの生成を阻害し、脱皮を阻害することにより作用すると考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: キャベツ(コナガ等)、なす(コナジラミ類等)等 今回、だいこん、はくさい、カリフラワー、ブロッコリー、レタス、非結球レタス、にんにく、アスパラガスへの適用拡大申請	
	使用方法: 散布	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI= 0.01 mg/kg 体重/day
	国際基準	仁果果実、畜産物等
	諸外国	米 国 基 準 : 仁果果実、綿実等 カナダ基準: りんご、畜産物等 E U 基 準 : ばれいしょ、トマト等 豪 州 基 準 : 仁果果実 ニュージーランド基準: 仁果果実
食品安全委員会での評価等	【1】	平成 15 年 10 月 29 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 15 年 12 月 25 日 食品健康影響評価結果 受理
	【2】	平成 17 年 2 月 28 日及び平成 18 年 7 月 18 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 18 年 10 月 26 日 食品健康影響評価結果 受理
	【3】	平成 19 年 6 月 25 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 19 年 9 月 6 日 食品健康影響評価結果 受理
	【4】	平成 20 年 12 月 9 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 21 年 2 月 5 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.011 mg/kg 体重/day

フェリムゾン

1. 今回の諮問の経緯

- 平成 23 年5月2日、農林水産省からの「農薬取締法に基づく適用拡大」申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	フェリムゾン（Ferimzone）	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	いもち病菌の菌糸生育及び孢子形成を阻害する水稻用殺菌剤である。作用部位はいもち病菌の膜機能または脂質生合成系と考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物：稲（いもち病等） 今回、稲への適用拡大申請（使用時期の変更）	
	使用方法：散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド：基準なし
食品安全委員会での評価等	平成 20 年 2 月 5 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 20 年 11 月 13 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.019 mg/kg 体重/day	

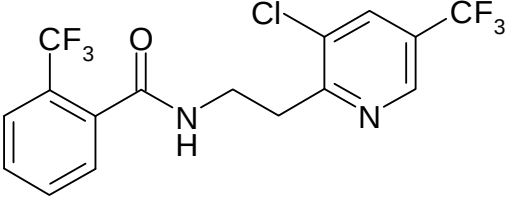
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

フルオピラム

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年3月 17 日、農林水産省からの農薬取締法に基づく新規申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	フルオピラム (Fluopyram)	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	ピリジリエチルアミド系の殺菌剤である。 病原菌のミトコンドリア呼吸鎖におけるコハク酸脱水素酵素(複合体Ⅱ)を阻害すると考えられている。	
日本における登録状況	登録されていない。 今回、なし、もも、ネクタリン、すもも、おうとう、ぶどうへの新規登録申請	
	使用方法: 散布	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI= 0.01 mg/kg 体重/day
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	初回	

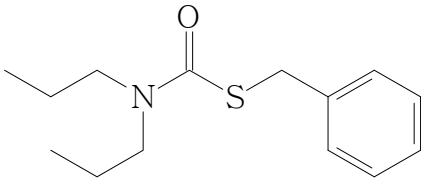
JMPR:FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

プロスルホカルブ

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年 4 月 5 日、農林水産省からの「農薬取締法に基づく適用拡大」申請に伴う基準値設定及び「魚介類」への基準値設定の要請を受理
- ・平成 22 年 10 月 19 日、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」(平成 16 年 2 月 5 日付け食安発第 0205001 号)に基づく「インポートトレランス」による残留基準の設定要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	プロスルホカルブ (Prosulfocarb)	
構造式		
用途	除草剤	
作用機構	チオカーバメート系の除草剤である。主に脂質生合成系(超長鎖脂肪酸生合成系)を阻害することにより、生体膜変性を誘起し、細胞分裂に影響を与えて雑草を枯死させると考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: 小麦(秋播) 大麦(秋播) (一年生雑草) 今回、麦類、とうもろこし、ばれいしょ、たまねぎ、にんじんへの適用拡大申請及び魚介類への基準値設定の要請 使用方法: 散布	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	EU 基準: にんじん、たまねぎ等 豪州基準: 畜産物等 インポートトレランス要請: えんどう、そら豆、たまねぎ、ねぎ、にんじん、セロリ、その他のせり科野菜、未成熟えんどう、ひまわりの種子、その他のスパイス(EU 基準)
食品安全委員会での評価等	平成19年8月21日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成21年4月16日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.019mg/kg 体重/day	

JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

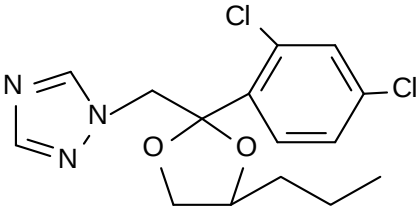
プロピコナゾール

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年 4 月 12 日、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」(平成 16 年 2 月 5 日付け食安発第 0205001 号)に基づく
インポートトレランスによる残留基準の設定要請を受理

※ ポジティブリスト導入時に設定した暫定基準の見直しに係る評価については、平成 22 年 11 月 10 日付けで、厚生労働大臣より食品安全委員会委員長あて依頼しているところ。

2. 評価依頼物質の概要

名称	プロピコナゾール (Propiconazole)	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	トリアゾール系の浸透性殺菌剤である。その作用性は他のトリアゾール系殺菌剤と同様に、糸状菌の細胞膜のエルゴステロール生合成阻害にあると考えられる。	
日本における登録状況	登録がなされている。	
	適用作物: 小麦、大麦(うどんこ病等) 使用方法: 散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI= 0.07 mg/kg 体重/day
	国際基準	大麦、てんさい、バナナ
	諸外国	米 国 基 準: 小麦、とうもろこし、アーモンド等 カナダ基準: 小麦、いちご、とうもろこし等 E U 基 準: 大麦、バナナ、リーキ等 豪 州 基 準: バナナ、ぶどう等
		インポートトレランス要請: ライ麦、大豆、らっかせい、てんさい、たまねぎ、にんじん、パセリ、イチゴ、クランベリー、バナナ等(米国基準)、ねぎ等(リーキを含む)(EU基準)
食品安全委員会での評価等	初回	

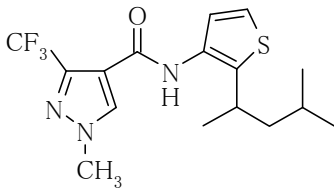
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

ペンチオピラド

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年3月7日、農林水産省からの農薬取締法に基づく適用拡大申請に伴う基準値設定の要請を受理

2. 評価依頼物質の概要

名称	ペンチオピラド(Penthiopyrad)	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	ピラゾール系殺菌剤である。作用機構としては、ミトコンドリア電子伝達系複合体Ⅱの阻害作用により、ATP合成を阻害するものと考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: キャベツ(菌核病等)、きゅうり(うどんこ病等)、たまねぎ(灰色かび病等)等 今回、非結球レタス、ねぎ、アスパラガス、すいか、みかん、ネクタリン、かきへの適用拡大申請	
	使用方法: 散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	平成 19 年 5 月 22 日 厚生労働大臣より食品健康影響評価を依頼 平成 19 年 10 月 4 日 食品健康影響評価結果 受理 ADI = 0.081 mg/kg 体重/day	

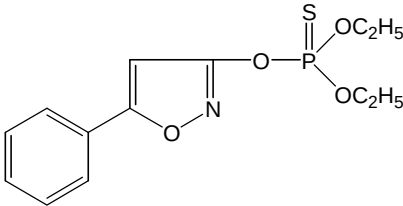
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

イソキサチオン

1. 今回の諮問の経緯

- ・平成 23 年3月 28 日、農林水産省からの魚介類への基準値設定の要請を受理
- ・ポジティブリスト制度導入時に設定した基準値の見直し

2. 評価依頼物質の概要

名称	イソキサチオン (Isoxathion)	
構造式		
用途	殺虫剤	
作用機構	有機リン系殺虫剤でコリンエステラーゼの阻害作用によって神経刺激伝導の正常な機能に障害を起こすことにより、殺虫効果を発現する。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: とうもろこし(アワノメイガ)、みかん(コナカイガラムシ類等)、いちご(コガネムシ類幼虫)等 今回、魚介類への基準値設定の要請	
	使用方法: 散布等	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会での評価等	初回	

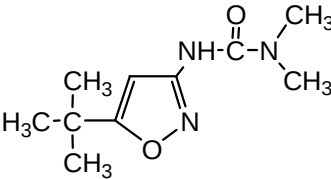
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

イソウロン

1. 今回の諮問の経緯

・ポジティブリスト制度導入時に設定した基準値の見直し

2. 評価依頼物質の概要

名称	イソウロン (Isouron)	
構造式		
用途	除草剤	
作用機構	尿素系の除草剤である。 光合成における光化学系Ⅱの電子伝達を阻害することにより作用 すると考えられている。	
日本における 登録状況	登録がなされている。 適用作物: さとうきび(畑地一年生雑草等)等	
	使用方法: 散布等	
国際機関、 海外での 評価状況	JMPR	毒性評価なし
	国際基準	なし
	諸外国	米国、カナダ、EU、豪州、ニュージーランド: 基準なし
食品安全委員会 での評価等	初回	

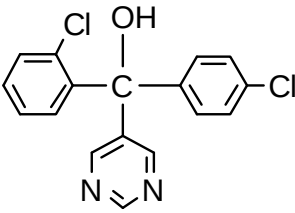
JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

フェナリモル

1. 今回の諮問の経緯

・ポジティブリスト制度導入時に設定した基準値の見直し

2. 評価依頼物質の概要

名称	フェナリモル (Fenarimol)	
構造式		
用途	殺菌剤	
作用機構	ピリミジン系の殺菌剤である。 エルゴステロール生合成の他、トリグリセリンやリン脂質などの脂質代謝を阻害すると考えられている。	
日本における登録状況	登録がなされている。 適用作物: なし (黒星病等)、いちご (うどんこ病)、トマト (葉かび病) 等	
	使用方法: 散布	
国際機関、海外での評価状況	JMPR	ADI = 0.01 mg/kg 体重/day
	国際基準	仁果類、バナナ、おうとう、メロン、ホップ、畜産物等
	諸外国	米 国 基 準: りんご、おうとう、畜産物等 E U 基 準: りんご、おうとう、うり類、ホップ等 豪 州 基 準: りんご、ぶどう等 ニュージーランド基準: りんご、ぶどう等
食品安全委員会での評価等	初回	

JMPR: FAO/WHO 合同残留農薬専門家会議

○評価依頼が 2 回目以降の剤に関する追加データリスト

【エスプロカルブ】

- ・作物残留試験

【クロチアニジン】

- ・Ames 試験 (2000 年) Safe pharm[GLP]
- ・TA1535 株の Ames 試験 (1991 年) BayerAG[GLP]
- ・V79/HPRT 試験 (2003 年) R C C [GLP]
- ・染色体異常試験 (2003 年) R C C [GLP]
- ・小核試験 (2003 年) R C C [GLP]
- ・UDS 試験 (2003 年) R C C [GLP]
- ・発達神経毒性試験 (2000 年) Argus[GLP]
- ・免疫毒性試験 (2004 年) CR-DDS、Argus[GLP]
- ・発達免疫毒性試験 (2008 年) Charles River[GLP]
- ・代謝物 (ATMG-Pyr) ; ラット急性経口 (2000 年) CovanceUK[GLP]
- ・代謝物 (ATMG-Pyr) ; Ames 試験 (2000 年) CovanceUK[GLP]
- ・代謝物 (ATG-Ac) ; ラット急性経口 (2000 年) CovanceUK[GLP]
- ・代謝物 (ATG-Ac) ; Ames 試験 (2000 年) CovanceUK[GLP]
- ・ラット動物代謝試験 (2000 年) BayerAG[GLP]
- ・マウス動物代謝試験 (2000 年) 武田薬品工業 (非 GLP)
- ・乳牛を用いた家畜残留試験 (2001 年) BayerAG[GLP]
- ・ヤギを用いた家畜残留試験 (2001 年) BayerAG[GLP]
- ・鶏を用いた家畜代謝試験 (2000 年) BayerAG[GLP]
- ・リンゴ (果実) を用いた植物代謝試験 (1999 年) BayerAG[GLP]
- ・リンゴ (葉) を用いた植物代謝試験 (1999 年) BayerAG[GLP]
- ・てんさいを用いた植物代謝試験 (2000 年) HuntingdonLifeSciences[GLP]
- ・[ニトロイミノ-14C]クロチアニジン : とうもろこしを用いた植物代謝試験
(2000 年) BayerAG[GLP]
- ・[チアゾール-2-14C]クロチアニジン : とうもろこしを用いた植物代謝試験
(2000 年) BayerAG[GLP]
- ・作物残留試験

【チアメトキサム】

- ・ 2 世代繁殖毒性試験における F 1 世代雌のリンパ節及び脾臓の病理組織学的検査
(2000 年) ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 2 世代繁殖毒性試験 (2004 年) シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [GLP]
- ・ ラット催奇形性試験における補足試験 (胸腺重量測定) (2000 年)
ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 変異原性試験 (復帰突然変異) (1999 年) ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (グルタチオン合成酵素測定) (2003 年)
シンジェンタスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (肝細胞増殖能/肝アポトーシス検討) (2003 年)
シンジェンタスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (肝小葉中心領域の細胞増殖能検討) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (酸化ストレスの検討) (2003 年)
シンジェンタスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (肝細胞増殖能/肝アポトーシス検討) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (肝酵素誘導の検討) (2003 年)
シンジェンタスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (代謝物の血紫中濃度の比較) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (マウスにおける系統差の検討) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (チアメトキサム及び代謝物における肝臓への影響の比較検討) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (マウス離乳児と成獣における肝臓への影響の比較検討) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (血漿中コレステロールへの影響) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ 発がん性 (メカニズム) 試験 (肝臓への影響に対する一酸化窒素の役割) (2003 年)
シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [非 GLP]
- ・ NOA407475 (代謝物 C) を用いた急性経口毒性試験 (1998 年)
ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ NOA407475 (代謝物 C) を用いた変異原性試験 (復帰突然変異) (1998 年)
ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 発達神経毒性試験 (2007 年) シンジェンタセントラルトキシコロジーラボラトリー [GLP]
- ・ 動物体内運命試験 (吸収、代謝) (2003 年) シンジェンタスクロップ プロテクション社 [GLP]
- ・ 動物体内運命試験 (代謝、排泄) (2000 年) ノバルティスクロップ プロテクション社 [GLP]

- ・動物体内運命試験（分布、代謝、排泄）（2000 年） ノバルティスクロップ プ ロテクション社[GLP]
- ・動物体内運命試験（分布、排泄）（2002 年） シンジ エンタクロップ プ ロテクション社[GLP]
- ・動物体内運命試験（代謝物同定）（2002 年） シンジ エンタクロップ プ ロテクション社[GLP]
- ・動物体内運命試験（吸収、代謝）（2003 年） シンジ エンタクロップ プ ロテクション社[GLP]
- ・動物体内運命試験（代謝比較試験）（2002 年） シンジ エンタクロップ プ ロテクション社[非 GLP]
- ・植物における代謝試験成績分布及び代謝（レタス）（1999 年） ノバルティス[GLP]
- ・植物における代謝試験成績分布及び代謝（きゅうり）（1999 年） ノバルティス[GLP]
- ・植物における代謝試験成績（ばれいしょ）（1999 年、2000 年） ノバルティス[GLP]
- ・LM-01 大動物（家畜）代謝に関する試験成績吸収、排泄及び代謝（ヤギ）
（1998 年）ノバルティス[GLP]
- ・LM-02 大動物（家畜）代謝に関する試験成績吸収、排泄及び代謝（ヤギ）
（1998 年）ノバルティス[GLP]
- ・LM-03 大動物（家禽）代謝に関する試験成績吸収、排泄及び代謝（ニワトリ）
（1998 年）ノバルティス[GLP]
- ・LM-04 大動物（家禽）代謝に関する試験成績吸収、排泄及び代謝（ニワトリ）
（1998 年）ノバルティス[GLP]
- ・大動物(家畜)残留に関する試験成績(ウシ)(1998 年、2002 年) ノバルティス[GLP]
- ・大動物(家禽)残留に関する試験成績(ニワトリ)(2000 年) ノバルティス[GLP]
- ・作物残留試験

【ノバルロン】

- ・作物残留試験

【フェリムゾン】

- ・作物残留試験

【プロスルホカルブ】

- ・作物残留試験

【プロピコナゾール】

- ・作物残留試験

【ペンチオピラド】

- ・急性神経毒性試験(2008 年) Huntingdon Life Science[GLP]
- ・反復経口投与神経毒性試験(2008 年) Huntingdon Life Science[GLP]
- ・ラット甲状腺機能に対する作用及びその回復性試験(2008 年) 残留農薬研究所[GLP]
- ・マウス14 日間肝薬物代謝酵素誘導及び肝細胞増殖能試験(2009 年) 残留農薬研究所[GLP]
- ・ラット 28 日間免疫毒性試験(2009 年) Huntingdon[GLP]
- ・マウス 28 日間免疫毒性試験(2009 年) Huntingdon Life Science[GLP]
- ・発達神経毒性試験(2009 年) Huntingdon Life Science[GLP]

- ・代謝物 PCA ; 28 日間反復経口投与毒性試験(2008 年) RCC[GLP]
- ・代謝物 DM-PCA ; ラット 90 日間反復経口投与試験(2009 年) Huntingdon[GLP]
- ・代謝物(753-T-D0) ; Ames 試験(2009 年) Covance[GLP]
- ・代謝物(PCA) ; 染色体異常試験(2008 年) RCC[GLP]
- ・代謝物(DM-PCA) ; 染色体異常試験(2007 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(PAM) ; 染色体異常試験(2009 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(753-A-OH) ; 染色体異常試験(2009 年) Covance[GLP]
- ・代謝物(753-T-D0) ; 染色体異常試験(2009 年) Covance[GLP]
- ・代謝物(PCA) ; マウスリンフォーマ試験(2009 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(DM-PCA) ; マウスリンフォーマ試験(2007 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(PAM) ; マウスリンフォーマ試験(2009 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(753-A-OH) ; マウスリンフォーマ試験(2009 年) Covance[GLP]
- ・代謝物(753-T-D0) ; マウスリンフォーマ試験(2009 年) Covance[GLP]
- ・代謝物(PCA) ; 小核試験(2009 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・代謝物(PAM) ; 小核試験(2009 年) 食品農医薬品安全性評価センター[GLP]
- ・ラット胆汁中の代謝物同定試験(2009 年) PacificBiolab、PTRL-West[GLP]
- ・ラット反復投与代謝試験(2009 年) Ricerca[GLP]
- ・作物残留試験